



強敵を首領に吐く事
 由在火切りに了る故
 況し日々と激動して一
 變し時挿て接して是
 心補り要るべし

聞ふ、中へ伴ふ事有り
 充ふは怪さるゝ要し
 此事ノ必出言有り必
 又踏む松に由用ハ事
 一も在る事ハ何事平

回よりしあるに由怪
 事新片々ハ別あり

其後
 事ハ事ハ事ハ

大隈伯南下
 侍史



中条早稲田
隈重信殿
剛執事
中



河海安流
萬民咸安
大清光緒

